



Title	国民社会の研究 第17巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1962-04-27
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77584
Type	manuscript
Note	国民社会の研究各論 第2章：生業活動の組織 『鈴木栄太郎著作集7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	1020_0117.pdf



[Instructions for use](#)

17

29

NOTE BOOK

國民社會の研究
第十七卷

昭和二十七年十一月十八日

MA3



HANKYU

KYOYEI

17

目次

- 一、地方構造の概念と私見 1
- 一、都市は其都市史の都市ではない。 3
- 一、市町村合併と交通機関 5
- 一、合併制構成若し人口民族構成 10
- 一、日本における官公庁の別如何 15
- 一、支配の限界 16
- 一、地方組織の整理 21

社会構造の概念私見

この概念は、^{に於ける社会生活の}共同体、国家及び

民族、^{社会}社会、^{共同}共同、^{組織}組織、^{集団}集団、^{共同体}共同体、^{国家}国家、^{民族}民族

国家及び民族の^{社会}社会の^{構造}構造の^{形成}形成

の中に^視視解するに^よよるものである。

また、^{社会}社会は、^{共同体}共同体の^{構造}構造の^{理解}理解

のためには、^{社会}社会に^存存する^{あり}あり、^中中

型の^{社会}社会、^{共同体}共同体、^{民族}民族、^{国家}国家、^{及び}及び

社会の^{構造}構造、^{社会}社会、^{共同体}共同体、^{民族}民族、^{国家}国家、^{及び}及び

社会の^{構造}構造、^{社会}社会、^{共同体}共同体、^{民族}民族、^{国家}国家、^{及び}及び

社会の^{構造}構造、^{社会}社会、^{共同体}共同体、^{民族}民族、^{国家}国家、^{及び}及び

社会の^{構造}構造、^{社会}社会、^{共同体}共同体、^{民族}民族、^{国家}国家、^{及び}及び

あ。

日本製紙における村落の福利構造を
和作次の本で説明した。

都市は其論市丈の都市ではない。

口境の日本の都市は大中小の既
引の組織枝社の組織の上は上下
の地位を以て一層の期待を以てい
得るを以ていふ。この整理の中に
總ての日本の都市は秩序を以て
都市を以ていふ。どの都市も
その都市の都市を以て決りし
てなり。

上級の都市の機能停止は互の
同歩調の下級の都市も停滞
の機能をまいせしめざる。

口境の全都市が統一して一つの
3

一大都市を形作りつゝよきと云へり。
その名は日本都市あり。その都市
は東京にあり。

一四日

市町村合併と交通機関

新市の発足は多様な官僚制の合理化
のため、口民を造るべきであらうと私は
都市計画を承明の新市の項に論じ
たが、その見方は誤つてはいない。又官
僚自身もそう思つてゐると思ふ。然し
この合併が合併による口民は一層困
難な生活に陥つて思はれた事柄が
裏切らぬ限り口民は新市の発足による
幸福を得ない。と考へるものは
殆ど当時予想してゐた交通機関の
整備不可が原因であらう。と
あつた。戦争中に米の口民は土木

ヤマト

や建設に因り、大規模の工事をフンタ
ンに整備し、山を削り道を作り
物をかける。その為の用具はスハラニク
活用し、何れも一、二枚にして山を
くずして見せかえ、けかりの足場を
一日の内に完成し、駐在任事と同等
に行つていよ。大きなタンポカーや工機
カーは何十人何百人の人力を即座に
動かしていよ。

四王の

征夷のまは田舎村のぼつれま下
スハラニクの
築造路を作よ、は竹筒景である。

村人は自家の作業団の耕作車を団ら

と自らより彼路に行く事も又ハスをつ
かして一すした甲申お都布のせりも客よ
しものとなつた。

口習と地着をよこし金口の町村の
どんな情陽にもよい交通路を生じ大き
なコンクリートのお宿屋には客を先り暖房
を備へはなぐがことよ。田舎を治りす
て他の光が俄かひさしとんて来た様は
んえよ。

このおきと幸福は一口を道路の整備
よよしのであよ。町村は合併して一町
に大きなる程や彼路か出来てよ是れ

と活用す。村人は不便な又道路のま

は苦勞が堪へず任かゝるゝと合併運

脚の既には誰れも懸保してゐる。それ

に合併は官俸制の累加によると考へ

るもの下である。

交通路の^非な^正に俄かの成長があるが

不審されていなり誰か反駁するが

もあろうか。

然し交通路の俄かの成長は町村合併か

のつたからこゝろ容易であるであらうか

合併なくともなれば出来ぬかも知れぬと

し考へられぬ。然し合併して道路を整備

又旧町村のまゝで口當下行やうも出来ぬかも知れぬ。道に
自然に合併に導くべしと出来ぬかも知れぬ。村の

(48p)
 * 五ヶ国文に依りて「同語又はソラエト連邦
 共産党綱領(共産)同題、第五卷
 第六号)欧亜十部会発行1961.12.
 P.14)に依りて。

五ヶ国文の足同は「現代ソ連邦における多数
 民族の民族社会学的研究」

ソ連邦構成共和国の人口・民族構成 *
 (総人口に対する%) 1959

ロシア共産国 総人口: 117,534,000

ロシア人	83.2%
ウクライナ人	3.5%
ウクタイ人	2.9%
タタール人	1.2%
モルドヴァ人	1.0%
バシキール人	0.8%
チチケ人	0.7%
以下総人口に對して	9.5%の民族、4,000,000
民族	8,000,1%の民族 15-

ウクタイ共産国

総人口 41,869,000

ウクタイ人	76.1%
ロシア人	17.7%
チチケ人	2.0%
オシエト人	0.9%
白ロシア人	0.7%
モルドヴァ人	0.6%
オウカリ人	0.5%
ハンガリー人	0.4%
以下総人口に對して	0.2%の民族 2

白ロシア共産国

総人口 8,055,000人

白人	80.0 %
白人	9.1 "
インド人	6.7 "
フィリピン人	1.9 "
その他	1.9 "

ワシントン州

総人口 8,106,000人

ワシントン州人	62.0 %
白人	13.6 "
インド人	5.5 "
フィリピン人	4.1 "
その他	
その他	2.1 %
その他	1.7 "
その他	1.2 "

カリフォルニア州

総人口 9,310,000人

カリフォルニア州人	29.6 %
白人	43.1 "
その他	8.9 "

4912人	2.1
ウズベク人	1.5
白ロシア人	1.2
以下総人口に対して0.8%民族 4	

グルジア共和国

総人口 4,044,000人

グルジア人	63.3%
アブkhaz人	11.0%
ロシア人	19.8%
アゼルバイジャン人	3.9%
オセチヤ人	3.5%
その他の人	1.3%

以下総人口に対して1.3%以下民族 4

アゼルバイジャン共和国

総人口 3,698,000人

アゼルバイジャン人	67.1%
ロシア人	13.9%
アブkhaz人	12.0%
レストラン人	2.9%

ロシア共和国

総人口 2,885,000人 2.9%

リスニア人	79.3%
ロニア人	8.5
ホイソニア人	8.5
カニア人	1.1
エタニア人	0.9
ウクソニア人	0.7

モルダヴィア共和国
 総人口 2,885,000人

モルダヴィア人	65.4
ウクソニア人	14.6
ロニア人	10.2
カニア人	3.3
エタニア人	3.3
ブニダール人	2.1

キルギス共和国
 総人口

キルギス人	40.5
ロニア人	30.2
ウズベク	10.6
ウクソニア人	6.6
タタール人	2.7

1.0%以下の民族 3

アジヤ共計人口

総人口 1,980,000人

アジヤ人 53.1% ウズベク人 2.3%
ロシア人 13.3% 991人 2.1

アムトニア共計人口

総人口 1,763,000人

アムトニア人 88.0% アムトニア人 6.1
ロシア人 3.2% ウズベク人 1.5

トルクメニスタン共計人口

総人口 1,516,000

トルクメニスタン人 60.9%

ロシア人 17.3%

ウズベク人 8.3%

アムトニア人 4.6%

イラン共計人口

総人口

イラン人

14

トルクメニスタン

日本における官吏と公務員の別は如何
官吏と公務員の別は世界一般に
然るのか。本條是れに相違があるのか
官制のありし取組の別は否とも
イテオロギヤルは同條のものと思はれ
し故に優位体系の構造様式も同形
であると思はれるか如何。(中央公務員
ニ對しては考案があるらしい。又文藝ニ
對しては官僚と政院のつなかりが推
察といふ)

支配の限界

支配は抵抗のないところには有
得ない。抵抗を以て対立して互
を押し通して行くときには支配は
あさ。抵抗を威すた人に対
し支配の責任が自らを免れな
る場合は支配ではない。支配
さびよりを有難く思ふ感謝
すも命令すうある。教団の指示
は従者は有り難い仰せで感
謝があるばかりである。
凡そ甲が乙に行ふの指示を以
て乙の指示に對して乙が受け
16 へ是の指示に對して乙が受け

と子任才・感じ元には次の様子を
後階が考へられた。

(その指が甲自身のためには望ま
しいが、このため被害をいふが、両方
のため望ましいが、これより差別があ
りし、甲の判断によるが、両方のし協謀による
からよつて田舎)

1. 有難く思ひ感謝す。

宗教の見よと国仔
愛の園外(連愛宗社
の園外見よ)

2. 各園心に従ふ
(各別別) 乙. 礼して従ふ

3. 予のさいから従ふ
乙. 畏服して従ふ

4. やしづ 抵抗したから
a. 特殊事情を以て
b. 不安したから
c. 不平を以てしたから
従わ

5. 強制され従わ

6. 屈服

- a. 言語での強制
- b. 暴力での強制
- c. 服従は不可脱故従わ
- a. 暴力の連続
- b. 抵抗力の去脱

統治の円滑は2, 3, 4, 5, 6が一般の民

大衆の態度、5, 6は村や親戚

階層に対しての民大衆は結果において

大部分が常に従わ。従わぬは村や親

毛裡して大なる影響を以ての故。
故に最高部に於ては國を道に達
成せしむるの第一般である。

然るに我々の國物資を取合はる実
上破壊されてゐる、死して立つて去るとして
布してゐる、こは如何に解釈す可

才か。法は必ず道をも、実行する
べきもの立派は他には暗黙の中に

政府の民の徴納をアソクエリートに

よ、と破るれ、その由例はあの大義を以

のより何れ、^{もあ}あ、あの原は

政府と国民が一体の感に於て、實上

生ずていゝたのであらず。持ちつていゝ事なれば
代には政廢はつて民の休むか雲の上の
あゝ林林とあるが世が知れぬとて民と
為難はずと年迄かゝ降す。

結市組織の原理

都市の大半は、今日の地域組織と統治の組織と相違なく、はたして、
である。本店支店代理店組織
に及ぶ、かれは経済活動が、ピラミ
ッド型の組織を適用して、その
又明かである。宗教的団体の統
織、文化普及運動にもこの組織
が用いられている。
凡そ一般に人間の活動が一つの地区
内にとどまる、すなわち近き他の
地区と連絡する、及びとき常々
この組織が用いられると考へられる。

この組織は人回造の^節波及して行く
基本的形式と見ても可いからである。

この経済制が既述の如く互の中心は
首都におかれ、首都より各口
にもれなくこの形式による波及の路
線が用意されるべきである。

この原理による活動の主要ものは
次の如し。

一、経済組織

一、商學組織

一、廣告組織

一、宣傳組織

23

- 一、布政组织 - 宗教活动
- 一、政务组织
- 一、教育组织
- 一、征服组织

(二月三日)